

03 フィンランド教育 混迷する教育の「救世主」に

白壁 庄司さんはフィンランド教育に造詣が深い。現地も視察して、つぶさに学んできています。人材育成を担う国際教育村では「フィンランド教育」を導入するということがありますが、なぜフィンランド教育なのですか。

庄司 フィンランドの小中学校では成績良い子は放っておくんです。成績の上の子には、何でもいいからやっつけていさい、と。日本では、教えれば伸びるのだからなぜ放っておくのだと思います。しかしフィンランドでは、頭がいいんだから自分でやることは自分で考えてやる、出来ない子をみんなで手伝ってやるんです。そのことで自分の能力をさらに高めていくわけです。フィンランドでは中学校までテストをしてはならない、と法律で決まっています。国が指導要綱を出してもいけない。何を、どう教えるか、という教材を使うかは教師の自由になっています。フィンランドには塾が1つもありません。

白壁 フィンランドの教師のレベルは非常に高いと聞きます。

庄司 フィンランドの小中学校を視察した時に、教室を見せてもらいました。机があつて、椅子があつて……。しかし、よく見ると、日本の教室とはいろいろところが違います。まず、何百という引き出しがあります。そこには子どもたち一人ひとりの資料が入っていました。教師

師たちの部屋には教育の研究書、自分で作った実験教材、読んだ本などがびっしりありました。コンピュータも数台備えてあり、教師がいろいろな情報を得ていました。授業の中でどんどん広がつていく子どもたちの発想や疑問に答えなければならぬわけですから、教師たちの勉強量はものすごいものがあります。

白壁 テストの中で育ってきた私たち日本人からすれば、テストがないというのは驚きです。

庄司 テストがないことによって、自分自身を見つめることができるわけです。テストがあれば上を見て諦めたり、下を見て満足したりするけれど、私はいったい何をするのか、何をしなければならぬのか。要するに、目覚めがものすごい能力を発揮することにつながります。国際教育村にはまず小学校、次には中学校を考えています。

白壁 2003年でしたか、経済協力開発機構（OECD）が世界41カ国約27万6千人の15歳を対象に行った学習到達度調査（PISA）では、フィンランドの子どもたちは世界のトップクラスの成績を収めました。テストがあり、塾がある日本の子どもたちの学力はすると低下しています。**庄司** このままでは日本の教育は大変なことになってしまふ、と誰も憂慮しています。今、日本の

教育で一番悩んでいるのは文科省の役人だと思っています。何をしたらよいのか分からない。以前、指導要綱は10年とか20年の単位で出されたものですが、いまはころころ変わっています。そこに混乱ぶりが表れていると思います。文科省の役人は、フィンランド教育を取り入れる私たちの取り組みに関心を持っています。日本の教育の未来にヒントを求めているということです。これを実現できるのは民間の学校法人でしかありません。実現すれば日本で初めて、アジアでも初のフィンランド教育による学校が開校することになります。日本の教育の「救世主」になる可能性を秘めています。

フィンランドの小中学校では、
頭がいいんだから自分でやることは自分で考えてやる、
出来ない子をみんなで手伝ってやるんです。
そのことで自分の能力をさらに高めていくわけです。

スペシャル対談

第3回「富士北麓の国際化を考える」

白壁賢一は富士北麓に大きな夢を描いています。
この地域を国際的なグレードの高いゾーンにすることです。
そのためには何が必要で、
未来をどう切り拓いていけばよいのでしょうか。
「国際交流村」を構想し、明日の富士北麓を切り拓く
子どもたちを育てようとしている
学校法人・マリア国際幼稚園の
庄司日出夫事務長と語り合いました。

ゲスト

学校法人 マリア国際幼稚園事務長
庄司 日出夫氏

お気軽にご意見をお聞かせください。

「白壁賢一」で検索してください！

白壁賢一

検索

TEL 0555-73-3737 FAX 0555-73-3757

〒401-0301 山梨県南都留郡富士河口湖町船津1505

白壁賢一 公式サイト: <http://www.shirakabekenichi.jp/>白壁賢一 E-Mail: Shirakabe@kawaguchiko.ne.jp

02 「国際交流村」構想 富士北麓の未来が見える

白壁 庄司さんは、①国際会議、研究開発②人材育成③観光産業開発の3エリアから成る「国際交流村」構想を温め、実行に移そうとしています。私もその趣旨に賛同し、協力しています。富士北麓の未来を考えると、こういうことが必要だと思うからです。

庄司 国際交流村の完成までには、3つのプロセスが必要です。まず、人材育成のために教育エリアを整備しなければなりません。国際会議が開催されるまで、少なくとも小学生が卒業している必要があります。それまでには3年は必要です。次に研究開発エリアでは、若い研究者が育っていなければなりません。一部の住民は生活をしていなければなりません。これには2年ほどが必要でしょう。ここで言う住民というのは、国際交流村に移住した一般住民のことです。国籍は問いません。国際的に活躍した政治、文化、芸術、スポーツ関係の人々に優先的に住んでいただくことによって、国際会議や交流の時、彼らが上品で教養のある話題や国際的なマナーを教授してくれることになるでしょう。このような環境がすべて整備されれば、日本の国際会議の80%ほどをこの富士北麓で開催することができると考えています。

白壁 何事もそうだと思います。ですが、やはり人づくりが重要です。グレードの高い、世界の要人たちが集う国際交流ゾーンをつくっていくためには、時間はかかってでも人材を育成していくことが不可欠です。そのことをひしひしと感じます。

庄司 富士北麓の国際化といっても簡単なことではありません。付け焼刃では絶対に成功しません。まずは人材を育成すること、教育が先です。それが富士北麓の国際化につながり、国際交流ゾーンと結びついていきます。考えてみれば、これは本来の富士山のあり方に近づく方法であると思います。人材育成の目的は、究極的には富士山、そして地域の未来はどうあるべきか、ということではないでしょうか。富士北麓に大きな工場をいくつも誘致してくるのが、それとも観光や農業、自然を大切に守り、将来、よくぞこの産業や自然を残してくれたといわれるような地域にするのかということです。

白壁 理想だけでは難しい面も出てきますが、いずれにしても富士北麓の知名度を国際的に上げていくことが必要です。世界に向かってアピールしていく必要があります。知名度を上げるためにはどうしていくか。来た人に2度と来たくないと思わせるようではだめです。喜び、満足してもらえるようにし

なければならぬ。ここはいい地域なんです。朝起きて、富士山を見上げると、ああい所に住んでいるな、と実感します。御坂峠から河口湖に下りてくると、湖の向こうに富士山がそびえ立っている。素晴らしい景観です。国際会議に出席した世界の要人たちに2、3日滞在してほしいものです。

庄司 富士北麓はこじんまりした地域です。富士山があり、湖があり、温泉もある。伊豆半島は東と西とひと回りすると1日かかるが、ここは2、3時間もあれば十分な地域です。ここに住んでいる私たちは忘れがちですが、この地域に足を運んで来る人たちは来るたびに違う富士山の表情と新鮮な空気に感動しています。そういう期待感があると思います。意外にいいのは、富士五湖がそれぞれの良さを保っていることです。

白壁 以前、スイスを旅行したことがあります。チューリッヒはビルの建ち並ぶ都市ですが、ちよつと足を延ばして鉄道でレマン湖の方へ行くと、いきなり雄大な自然の中に入っていきます。富士北麓も同じようです。国際交流村をつくるのに相応しい場所だと思います。この構想が具体化すれば、富士北麓の未来が見えてきます。



学校法人 マリア国際幼稚園事務長
庄司 日出夫 【しょうじ ひでお】

1948年、山形県生まれ。大学卒業後、東南アジアを中心に約10年間放浪。帰国後、富士北麓に移住し、日本で初の英語教育による幼稚園「マリア国際幼稚園」開園。国際観光連絡協議会初代会長も務めた。

「フィンランド教育」導入で 国際化を担う 人材を育成——庄司



01 国際交流ゾーン 問われる「もてなしの質」

白壁 私は常々、富士北麓の発展は「国際化」にあると考えています。富士山を仰ぎ、手つかずの自然が残っているこの地域には、現在も諸外国から多くの人が訪れます。ここを更にグレードの高い国際交流ゾーン、国際会議などが開催され、世界の要人が集うような地域にしたいのです。県議会でも再三にわたって国際コンベンション誘致促進策などを要望してきました。

庄司 確かに、富士北麓の未来は「国際化」がキーワードだと思います。グレードの高い国際交流ゾーンの形成は素晴らしいことです。課題はたくさんありますが、決して不可能なことだとは思いません。日本の象徴としての富士山があり、雄大な自然があり、空気はいい、観光もある。豊かな食材は地元にもあるし、新鮮な魚もすぐに手に入ります。これほど条件がそろっている場所は他にないのでは…。

白壁 世界の要人が羽田空港から短時間で移動して、到着したらそこには富士山があり、静かな環境の中で集中して会議ができるし、家族が同行してくればテーマパークで遊んだり、アフターコンベンションで何日間かスローストリズムを楽しむこともできる。富士北麓は無限の可能性を秘めた地域だと思います。

庄司 地方の特色と関係のないような国際会議は、固定した場所で開催した方が効率的です。初期投資だけで済むもので経済的にも大きなプラスです。しかし、仮に国際会議が富士北麓で定期的に開催されるとしても、住民意識、感覚がそれに応えられる状況にあるかといえ、かなり疑問です。国際会議

に対する住民の関心はほとんどありませんし、情報もない。突然、町の中をいろいろな国の人が歩いているのに気づくくらいです。

白壁 そうですね。道を探ねられても満足に答えることができない。通訳もほとんどいない。国際観光地とはいっても、国際感覚という点ではまだまだというのが実情です。

庄司 国際会議開催にとって重要な条件は、スタッフの質はもちろん、問われるのは「もてなしの質」です。上品で、教養があり、国際的なマナーが備わっていないけません。固定型の場合、何よりも大事なことは、何度来ても飽きない、また来たいと感じてもらうことです。不愉快なことは絶対にあってはなりません。これは一朝一夕にはできないことです。時間のかかる仕事です。

白壁 スイスは国際会議が多い国ですが、先般庄司さんが訪れたフィンランドでも多いですね。庄司 ほつとするんですよ。フィンランドでの国際会議はほとんど、ヘルシンキにあるヒルトンホテルで開催されるのですが、そこは町の中心から車で20分くらいの場所にあつて、周辺がとてもいい環境です。湖があつて、夕陽がとてもきれいで、散策路や品の良い別荘、それにテニスコートやゴルフ場もあつて要人

たちがジョギングをしていたりする。みな落ち着くのかな、と。要人ともなれば文化遺産なんかは見飽きている。むしろ何もないこと、何もなしの良さだと思っています。静かな散策路、小鳥のさえずり、小動物や蝶を大切にしているような環境。大規模な施設をつくるのではなく、こういうコンセプトで地域をつくっていく必要があります。ひと昔前、国際会議といえば熱海でした。でも今、熱海で開催する人はいない。熱海は繁華街ばかり立派にして、人づくりをしなかったからです。その轍を踏まないことです。

富士北麓の大地に グレードの高い 国際交流ゾーンを——白壁



山梨県議会議員
白壁 賢一 【しらべ けんいち】

1960年生まれ。93年に33歳で旧河口湖町議に初当選、3期務める。2003年に富士河口湖町議に当選し2期。この間、議長などを歴任。07年に山梨県議会議員に初当選。自由民主党輝真会に所属。